

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての運営理念を掲げているがユニットとしての独自の理念も設けており、「その人らしさ」を心がけながらケアを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を基に運営・ケアを実行するにあたり、方針がずれないようにミーティングやカンファレンス、ケアプラン作成等の機会を通して共有している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	公民館行事への参加、運営推進会議を通じて、家族・町内会長・民生委員・ボランティアの方にホームの理念、活動を報告し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などの外出時に挨拶を交わし、気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りに努めている。またミーティングルームを自治会の集会所として開放している。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃や公民館行事、運動会への参加、また自治会と合同の夏祭りを開催し、地域の人々との交流に努めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームで開催している行事には、地域の高齢者の方にも案内状を配り、一緒に楽しんでいただいたり、介護相談を受けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価内容は、スタッフ全員で取り組み、意義を理解できている。できていない点をホーム全体で月間目標に掲げ改善に向けて取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム運営や活動状況を報告している。参加者からの質問・意見・要望をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新代行、訪問調査表の開示や事故報告をその都度、市町に持参するなどして、訪問の機会を多く持つようにしている。また、その都度、相談をしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	積極的に外部研修に参加するなど学ぶ機会を持ち、家族へ説明、アドバイスを行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだことをホーム内の研修を通じて、職員に周知徹底するように努めている。また、事故対策・身体拘束廃止推進委員会を設置するなど、虐待予防・防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は契約書・重説を提示しながら説明を行い、ホームとして出来ること、出来ないことの説明をしている。また、重度化した場合の指針、終末期の看取りについて説明を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が、個別に面接して意見を聞いている。また、積極的にボランティアを受け入れ、利用者が話しやすいような雰囲気づくりに努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時での報告や、電話、電子メール、ホーム便りなど利用者様や家族様の生活の状況に応じて報告を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に4回行う家族会や面会時、電話等で意見や要望の確認を行っている。また苦情受付の意見箱を設け、苦情についてのマニュアルも作成し対応できるようにしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム全体ミーティングやユニット別のミーティングを月に1度行い、職員同士の意見交換の場を設け、運営に反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や行事など人手が必要な時の人数調整、利用者様の状況に合わせた勤務変更や職員で欠勤者が出た場合の勤務変更など必要な人数を確保できるように調整している。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として職員の交代はしないように努めている。交代した場合や離職後に気軽に訪問出来るように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	雇用の原則を守っている。就業規則に従い、採用後は、一人ひとりの長所や経験を伸ばす事が出来るように、配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和研修をはじめ、外部研修に積極的に参加し、利用者、家族、職員の、人権の尊重を念頭においている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修で経験に応じた教育を受けている。また、内部研修では、中堅クラスの職員が教育委員となり、毎月勉強会を行っている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動には必ず参加している。その他ブロック会の勉強会に参加しており同業者同士のネットワークがある。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダーを中心にして、毎月ユニットごとのミーティングを行い、休憩を徹底するように話し合っている。業務に追われる毎日だが、お互いに声を掛け合い業務の改善に取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則を遵守し年2回の健康診断を実行している。正職、契約社員にかかわらず、年1回の人事評価を実施して、個々の努力を認め、昇給がある。研修費用の個人負担はない。介護支援専門員受験者に対して優遇している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や必要に応じて自宅訪問をし、本人と面談を行い、傾聴するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や必要に応じて自宅訪問をし、家族等からの相談を受けている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況に応じて助言を行い、必要であれば他のサービス機関を紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯や調理など得意な分野で活躍して頂けるようにしている。その中で職員が教わる立場で支援し、支えあう関係作りに努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、月に1度のホーム便りにて現状報告や相談を行いながら本人を支えていく関係を築いている。家族から昔話を聞き、ケアに取り入れている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会等の行事と一緒に食事を行って頂いたり、面会時には居室でゆっくりお話して頂いたりしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職場の同僚の方や婦人部と一緒に活動されていた方が気軽に面会に来て頂いたり、手紙や電話でのやり取りを自由に行なって頂いている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	気の合う方同士で一緒にテーブルで食事を行なって頂いたり、自立されている利用者様に介助の必要な方のお世話をしたりしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話や手紙でホームの行事に招待したり、家族様からも面会や生活雑貨の寄付をして頂くなど継続的な関わりを大切にしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報提供をもとに職員でカンファレンスを開き把握に努めている。意思表示の困難な方については情報以外に些細な言動から希望や意向を把握できるように努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに関わった事業所や関係者からのアセスメント表や本人様・家族様からの情報収集をもとに把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事、排泄、睡眠チェック表をホーム独自で作成し生活リズムの把握に努めている。個々に応じた出来ること、出来ないことを見極め、申し送り等で職員が共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から要望や意見を聞き、一人ひとりその時点に沿った具体的な介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや、利用者様の状態の変化、家族様の意見や要望を改めてお聞きした際に見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに日々の様子や会話の内容等を個人記録やケア日報に記録している。勤務開始時に申し送りを行い、情報の共有を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密接な連携がとれており、健康管理が十分に行えている。重度化に対する指針を定めており看取りの体制が出来ている。入院した場合は、出来るだけ早期に退院が出来るよう医療機関に働きかけを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア活動による協力や、地域行事への参加、緊急時の警察・消防との連携などを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向を尊重し、包括介護支援センターや有識者等に相談し必要なサービスを受けられるよう支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で相談や連携を行いながら協働している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する、かかりつけ医の医療を受けられるようにしている。他の医療機関を受診する時は、事前に家族に相談している。受診での情報は、電話で早急に伝達している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に知見が深く、定期的な往診により入居者様の状態を熟知しており、適宜、指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が職員として常駐しており、24時間相談ができ、健康管理や医療的支援をしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は職員が交代でお見舞いに行っている。病院の医療連携室を通して早期退院に向けた相談を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者様、家族様の意見や要望を状況に合わせてお聞きし、かかりつけ医とその都度話し合いを行い、方針を決めている。情報の共有も同時に行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師中心にホームとしてできること、できないことを見極め、かかりつけ医と相談をしている。看取りについて外部研修や内部研修を行い、準備をしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者へ利用者様のこれまでの生活状況や習慣等を詳しく伝え、継続したケアを保つように努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社契約事項に秘密保持について説明し、同意のサインを得ている。個人情報保護法についての内部研修を行っている。利用者への声掛けは、ミーティング時や随時注意しあって、尊厳を傷つけないような対応を心がけている。	○	今後も利用者一人ひとりにプライドが保てる生活の場を提供していきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望を表せられるような言葉掛けや提案、自己決定により納得した生活を送って頂けるように努めている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを支援しているが、利用者の重度化や勤務体制などから、業務優先にならないように業務改善に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族や本人から好みを聞き、その人に合った身だしなみやおしゃれを支援し、なじみの美容室や訪問美容を利用して頂いている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行っている。献立は入居者様の意見を取り入れたり、状態に応じて個別に食事を作っている。食事の準備・後片付けなど、入居者・職員と一緒にこなしている。食事が楽しみなものになるように心掛けている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の状況に合わせてコーヒーや紅茶、養命酒等個別に対応している。タバコについては火災にならないよう所定の場所を設けている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用や、そこから得た排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い気持ちよく排泄できるように支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立に近い人は、その日に希望を聞いて行っているが、重度の利用者はその日の状態の変化、職員の勤務体制により時間帯を決めている。		勤務体制の調整に努め、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴の支援に励みたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠、浅眠時には翌日にお昼寝して頂いたり、季節に応じた寝具を使用して頂き、安心して眠れるようにしている。また夜間に巡視を行い安眠されているかどうかを確認している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意な分野(家事や習字など)で役割を持っている。また日々、散歩やレクリエーション活動(ボール遊びや歌、体操)に参加して頂いたりしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に少額のお金を所持して頂き、買い物を希望された際は一緒に買物に行っている。また置いた場所を忘れて、紛失など無いように週に1度、本人と職員で金額の確認を行い、ノートに記入している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節のよい時は月間目標に掲げて散歩、買い物、ドライブ等に出かけるように取り組んでいる。重度の人はベランダで庭園を眺めたり、日向ぼっこをし、外気に触れる機会を作っている。自立している人はいつでも好きな時に裏庭を散歩して花や野菜を見て楽しんでいる。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度の外食会や季節の行事(花見や初詣、蛍見学など)に外出している。また家族様との外出は利用者様の状況に応じて出来る限り外出して頂けるように支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話を掛けて頂いており、家族様も了承されている。手紙も届いた際には返信用の手紙を用意し、職員の言葉掛けて書いて頂き、やり取りができるように支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	お茶をセルフサービスでご用意し、居室やフロアで気兼ね無く、居心地よく過ごして頂けるように工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加を積極的に行っている。研修参加者はホームミーティングで研修報告を行い、職員の身体拘束をしないケアの意識作りや実践に取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族会で話し合いをし、家族より安全上「施錠してほしい」と要望があり、ユニット出入り口は施錠している。(全家族承諾済み)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的に巡視、訪室を行い様子の把握に努めている。フローアから死角となる廊下にはカーブミラーを設置し、立ち上がりや歩行の不安定な方については、利用者様と家族の了承を得て、鈴やセンサーマットを設置し、安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具や爪切り、はさみなど利用者様の了承を得て管理し、必要な場合や、一人ひとりの状態に応じて職員の見守りのもと使用して頂いている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部に事故対策委員会があり、全国のホームに指導・管理をしている。また、他のホームの事例を共有している。 当ホームも、事故対策委員会を設置し、ミーティングで事故やヒヤリハットを報告し、情報を共有している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。また消防署の協力を得て定期的に防災訓練を行っている。町内のパトロール隊などに協力していただけるようお願いしている。	○	新入社員は段階を追って教育を行うようにしているため、全ての職員とまでは言えない。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	社内の研修会と年2回の消防訓練の時に必ず訓練を行うようにしている。 急変時マニュアルを作成して目に付き易い場所に置いている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や利用者の状態の変化に応じて、リスクについて家族に説明し話し合いを行い、必要に応じて医師からの説明も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や体調に注意してケアにあたっている。 バイタル異常時は早急に看護師や医師へ報告と指示を仰ぎ、申し送りで職員同士が情報の共有を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や服薬チェック表などを活用している。 病気や薬剤については、勉強会を開いている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や水分の摂取量のチェック、体操や散歩などの活動を心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に必ず行っている。介助の必要な方は職員が義歯の装着や取り外し、洗浄を行っている。夜間は水につけて管理し、週に2回入れ歯洗浄を行っている。専門職による口腔ケアの指導を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のカロリー計算のもと個々に合わせ、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分量もチェック表を使用して、その人に応じた水分量を確保できるように支援している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に一度、利用者様と職員はインフルエンザの予防接種を受けている。感染症に対する研修やマニュアルの作成し実行している。また日頃から手洗い・うがいを徹底している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルがある。 調理の際、まな板・包丁をアルコール消毒をしている。また、夜間、台所用消毒液で、まな板・包丁・布巾を消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や階段には、スロープ、手すりを設置し、安全に配慮している。また玄関や建物周囲には、花壇を置き親しみやすい雰囲気をつくっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングなどには、花、写真、絵画などを飾り、家庭的な雰囲気を出している。また、季節感などを積極的に取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙者用のスペースを設けたり、ソファを設置し、気の合う利用者様同士がゆっくり過ごせるように工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでもらったり、思い出の品や写真など、その方の生活習慣を大切にしたい、その人らしい居室作りを行っている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	高い窓の開放・常時換気扇を回している。温度調節は、各居室に温度計を設置し、入居者の様子を見ながら、こまめに行っている。また空気清浄機や加湿器など必要に応じて活用している。換気扇は定期的に清掃をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態の変化に応じて、手すりの位置の見直しや、テーブルの高さの調整を行っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には表札を、トイレ・浴室・洗濯室・台所などには目印になる分かりやすい表示を設置し混乱を防ぐための工夫をしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにベンチを設置し、日光浴を行って頂いたり、裏庭の花壇に季節の花を植えたり、畑で野菜を育て利用者と一緒に収穫を行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ミーティング・申し送り時に、唱和して理念を共有している。又、ユニット独自の理念を作り、実践に向けて日々取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から職員にミーティングやカンファレンス、ケアプラン作成時などに伝えられ職員も認識している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	公民館行事への参加、運営推進会議を通じて、家族・町内会長・民生委員・ボランティアの方にホームの理念、活動を報告し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近所のお地蔵さんにお参り行く際、近所の方と挨拶や世間話をしたり、顔なじみの関係ができています。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の清掃・校区の運動会等参加、地域と合同の夏祭りなどを通じて、地域の方との交流を深めている。又、地域の方や園芸ボランティアの方が、草とり、畑の手入れなど、気軽に立ち寄ってくださり、ホーム運営に協力して頂いている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームでの行事に、地域の人を案内し、一緒に楽しんでいただいたり、介護相談を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価内容は、スタッフ全員で取り組み、意義を理解できている。できていない点をホーム全体で改善に向けて取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム運営や活動状況を報告している。参加者からの質問・意見・要望をサービス向上に活かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新代行、訪問調査表の開示や事故報告をその都度、市町に持参するなどして、訪問の機会を多く持つようにしている。また、その都度、相談をしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	積極的に外部研修に参加するなど学ぶ機会を持っている。必要な家族へ説明、アドバイスを行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んだことをホーム内の研修を通じて、職員に周知徹底するように努めている。また、事故対策・身体拘束廃止推進委員会を設置するなど、虐待予防・防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、書面・口頭で、説明を行い、不明な点は納得・理解して頂けるまで説明している。入居されてからの疑問点などもその都度、説明している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が、個別に面接して意見を聞いている。また、積極的にボランティアを受け入れ、利用者が話しやすいような雰囲気づくりに努めている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月刊のホーム便りを発行(活動内容・入居者様の担当職員からの近況報告)預かり金出納帳を同封し、郵送している。又、面会時、行事等の様々な機会を通じて近況報告行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、家族同士で話し合ってもらう時間を取り、意見や苦情を代表者から伝えてもらっている。それを運営に反映させ、改善に努めている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体ミーティングやユニットごとのミーティング、リーダー会議を行い職員との話し合いの機会を多く設け、運営に反映している。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせて、勤務体制を工夫している。業務量に合った人員の配置をしている。有給休暇は個人の希望にあわせて取っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則として職員の交代はしないように努めている。交代した場合や離職後に気軽に訪問出来るように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	雇用の原則を守っている。就業規則に従い、採用後は、一人ひとりの長所や経験を伸ばす事が出来るように、配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和研修をはじめ、外部研修に積極的に参加し、利用者、家族、職員の、人権の尊重を念頭においている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修で経験に応じた教育を受けている。また、内部研修では、中堅クラスの職員が教育委員となり、毎月勉強会を行っている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に入会しており、活動には必ず参加している。その他ブロック会の勉強会に参加しており同業者同士のネットワークがある。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダーを中心にして、毎月ユニットごとのミーティングを行い、休憩を徹底するように話し合っている。業務に追われる毎日だが、お互いに声を掛け合い業務の改善に取り組んでいる。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則を遵守し年2回の健康診断を実行している。正職、契約社員にかかわらず、年1回の人事評価を実施して、個々の努力を認め、昇給がある。研修費用はすべて個人負担はない。介護支援専門員受験者に対して優遇している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や必要に応じて自宅訪問をし、本人と面談を行い、傾聴するように努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学や必要に応じて自宅訪問をし、家族等からの相談を受けている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況に応じて助言を行い、必要であれば他のサービス機関を紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や体験が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意とする残存能力を活かし(調理や掃除、洗濯など)力を発揮してもらっている。また、職員が教えてもらうこともあり、共感しあえる場を作っている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や家族会や敬老会の行事等、様々な機会を通して、家族の協力を得ている。家族会でホームの庭の草取りや清掃をしていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生日会・家族会や行事を通じて、一緒に食事をするなど、ふれあいの機会を多く作っている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等に相談しながら、外出や面会に来てもらうなど支援に努めている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	共通の話題や趣味を通じて交流が持てるよう、必要に応じて職員が介入している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後も、家族が気軽にホームに訪れ、相談に来られるなど継続的な関わりを大切にしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や介護計画見直し時等、利用者・家族に意見や要望を確認している。意思表示が困難な方は、言動や家族の情報により把握に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報、バックグラウンド、アセスメントなどにより、これまでの暮らしやサービス内容の把握に努めている。また、親戚・兄弟の訪問の際、聞き取りを行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握している。また、ケアカンファレンスを通じて現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族から要望や意見を聞き、一人ひとりその時点に沿った具体的な介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて、本人・家族・主治医等と話し合い、現状に即した計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアの状況、結果、気づき、または、会話内容などを記録し、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と密接な連携がとれており、健康管理が十分に行えている。重度化に対する指針を説明し、書面にて了承を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館の行事等に参加したり、ボランティアの協力を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	実際にまだ他のサービスの活用をやったことはないが、以前に入居相談を受けた際、必要が生じた場合は、他のサービスに応じると返事をした事がある。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、地域包括センターや民生委員等に相談しながら協働している。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する、かかりつけ医の医療を受けられるようにしている。受診時は、事前に家族に相談している。情報は、電話で早急に伝達している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症に知見が深く、定期的な往診により入居者様の状態を熟知しており、適宜、指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師（職員）が常駐しており、24時間相談ができ、健康管理や医療的支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と病院の医療連携室と早期退院に向けた相談を行って、実施している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より終末期のあり方について話し合いを行っているが、状態が変化した場合は、本人・家族・かかりつけ医・職員と話し合い、方針を決めている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師中心にホームとしてできること、できないことを見極め、かかりつけ医と相談をしている。看取りについて外部研修や内部研修を行い、準備をしている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所への移動の際は、ケア関係者に精神・身体的状況、生活の仕方など、情報交換できる体制をとっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社契約事項に秘密保持について説明し、同意のサインを得ている。個人情報保護法についての内部研修を行っている。利用者への声掛けは、日頃から心がけ、尊厳を傷つけないような対応をしている。	○	今後も利用者一人ひとりにプライドが保てる生活の場を提供していきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の希望、関心、嗜好を見極め、本人が自分で選択し、決められるような場面をつくり支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを支援しているが、利用者の重度化や勤務体制などから、業務優先にならないように業務改善に取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人主体の身だしなみやおしゃれができるように支援できている。また、本人・家族に相談して、新しい洋服等を選んだり、本人らしい身だしなみ(化粧・ヘアカラー等)ができるように支援している。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや力を活かしながら、食事の準備・後片付けなど、入居者・職員が一緒に行なっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人と家族の要望で、晩酌やたばこ・飲み物等、日常的に楽しめるように支援している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々に応じた排泄の支援を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日に入浴の希望を聞くように努めている。入浴を拒む人には、職員が交代して行い、気持ちよく入浴できるように支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状態や希望に応じて、休息や午睡を取り入れている。また、夜に眠れない利用者には、日中、散歩などの活動を取り入れ、生活リズムを取り戻すように工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な事や生活歴を活かした役割、楽しみごとを提供している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を所持している人は、数名おられる。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月間目標に掲げて日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かけるように取り組んでいる。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て、墓参り等に行けるように働きかけている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、電話をかけたいと要望があった時は、その都度対応している。また、ホームに届いた入居者宛ての手紙、贈り物などが届いた際には、手渡している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問時は、居室やリビング・集会場など要望に応じ場所を提供している。 家族と一緒にホームで食事が出来る。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を設置し、社内研修において勉強会を開き、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族会で話し合いをし、家族より安全上「施錠してほしい」と要望があり、玄関のみ終日施錠している。(全家族様承諾済み)		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	死角はミラーを設置し、入居者様の所在確認を行っている。また職員同士で声を掛け合い見守りをしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は事業所で管理・保管をしている。入居者様の状態・能力に応じて、縫い針や爪切りなどその都度手渡している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	本部に事故対策委員会があり、全国のホームに指導・管理をしている。また、他のホームの事例を共有している。当ホームも、事故対策委員会を設置し、社内研修などで知識を学び、情報を共有している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	社内の研修会と消防訓練の時に必ず訓練を行うようにしている。急変時マニュアルを作成して目に付き易い場所に置いている。	○	新入社員は段階を追って教育を行うようにしているため、全ての職員とまでは言えない。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。また消防署の協力を得て定期的に防災訓練を行っている。町内のパトロール隊などに協力していただけるようお願いしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時にリスクについては話しているが、身体機能低下によるリスク等は、その都度家族へ報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師・かかりつけ医に報告し、早期発見、予防に努めている。また状態は、記録に残し情報を共有している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報やチェック表などを活用している。病気や薬剤については、勉強会を開いている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れている。また体操や散歩など体を動かす機会を個々の状態に応じて行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの状態に、応じて介助している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じて、1日のカロリー摂取量(医師の指示にて)・水分量は、把握・確保できている。また、安全に摂取できるようみ、刻みなど個別に対応している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外から帰ってきた際の手洗い、うがいはできている。また定期的な勉強会で、感染症マニュアルに基づいて予防や対応の取り決めを行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルがある。 調理の際、まな板・包丁をアルコール消毒をしている。また、夜間、台所用消毒液で、まな板・包丁・布巾を消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場間には、スロープ、手すりを設置し、安全に配慮している。また玄関や建物周囲には、花壇を置き親しみやすい雰囲気をつくっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングなどには、花、写真、絵画などを飾り、家庭的な雰囲気を出している。また、季節感などを積極的に取り入れて居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが3台あり、気の合った同士が自由に座れるようにしている。喫煙者は、喫煙スペースを確保している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を持ち込んでもらったり、思い出の品や写真など、その方の生活習慣を大切にしたい、その人らしい居室作りを行っている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、窓を開放・常時、換気扇を回している。温度調節は、各居室に温度計を設置し、入居者の様子を見ながら、こまめに行っている。また空気清浄機や加湿器など必要に応じて活用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態の変化に応じて、手すりの位置の見直しや、利用者に合わせてテーブルの高さの調整を行なっている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴室・洗濯室・居室などわかりやすいように表示している。(のれんや点滅電球等)		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作ったり、花を植えたりして利用者が日常的に楽しんで活動できるようにしている。また、テーブルや椅子を置き、くつろげるような環境を提供している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○開設当初から家族会を作っている。

ユニットごとに、家族会をまとめる会長、副会長が、職員と家族同士の架け橋になっておられ、年を追うごとに活動が活発になっている。

○地域との交流を大切にしている。夏祭りは、地域の子供会とホームが合同で主催している。地域の住民の参加が多く恒例になっている。

○医療機関と24時間連絡が可能。また、看護師が常勤であるため安心して暮らすことができる。入院するケースは非常に少なく2年以上入退去がない。

○栄養士がスタッフとして勤務しており、美味しい食事やその人にあった食事の提供ができる。

○月に1回、外食を取り入れており、入居者様の要望でお店を決めている。